

吉田 忠生：ヒジキの学名について

日本で古くから食品として親しまれてきているヒジキは北海道南部から本州・四国・九州・南西諸島・朝鮮半島・香港まで広く分布している。ラテン語の学名を最初に与えたのはHarvey(1859)で、CharlesWrightが伊豆下田で採集した標本(Fig. 1)に基づいて*Cystophyllum fusiforme*と名づけた。Yendo(1907)は生殖器床が葉の腋から生ずるので*Cystophyllum*属に含める

ことはできないとし、棍棒状の“葉”が膨らんで中空になっているのはラッパモク属*Turbinaria*の特徴に近いと考えた。そして疑問符をつけながら*Turbinaria*(?)*fusiformis*としている。このような暫定的な取り扱いはいは現行の命名規約では認められない。

Yendoの扱いもほかの研究者を納得させるものではなかった。1926年に東京で開催された第3回太平洋学



Fig. 1 Harvey が描いた図。Dawson (1959) が発表したもの



Fig. 2 沖縄佐敷で採集された標本
SAP 050077 April 28, 1985. 山本虎夫採集

術会議の際に、この問題が岡村と Setchell の間で議論されたという。Tahara(1929)はヒジキとウミトラノオで、放出卵の核の数が8個であることや胚の一次仮根が8個形成される点などが似ていることを示した。Setchell(1931)は香港のホンダワラ類を研究した際、この種類をホンダワラ属の *Bactrophyucus* 亜属に含め、*Sargassum fusiforme* (Harvey) Setchell の組み合わせを提案した。それに対し岡村(1932)は葉と気胞との分化が明確でないことなどを根拠にしてヒジキ属 *Hizikia* を記載した。なお、学名のつづりにはいくつかの混乱 (*Hijikia*, *Higikia*) があった。赤塚(1979)の指摘により、最初に発表されたつづりが正しいものとして使用されてきている。

このような経過で、日本ではヒジキの学名として *Hizikia fusiformis* (Harvey) Okamura を使用してきている。一方中国では曾呈奎が Setchell の意見にしたがってホンダワラ属として扱ってきている (Tseng 1983)。

1984年以来回数を重ねてきた Workshop on Taxonomy of Economic Seaweeds において曾呈奎と筆者の間でもこの問題を議論してきた。曾呈奎はつねに彼の意見を主張しつづけたし、筆者も岡村の見解を繰り返してきた。これは香港産の南方系の形態を見てきた曾呈奎と、本州産の円柱状から棍棒状の葉をもつ個体群 (Fig. 1) に見慣れた日本側の研究者との違いかもしれない。沖縄の個体群も香港産のものに似た形態を持つ (Fig. 2)。Yoshida *et al.* (1983) はヒバマタ目のいくつかの属について生長点の構造を調べ、ヒジキもホンダワラ属の種と同様な横断面で三角形の生長点細胞を持つことを示した。Lee & Kamura (1997) も各地の個体群について形態の比較を行い、*Hizikia* の独立性に疑問を持っている。分子系統学的手法を取り入れてこの問題を取り扱う試みがなされた (Stiger *et al.* 2000)。ヒバマタ目について nrDNA の ITS-2 (internal transcribed spacer) の塩基配列を比較することが属や属内分類群の系統を考察するのに有効であることがわかり、多数の種から資料を得て検討を行った。その結果、ヒジキはホンダワラ属の *Bactrophyucus* 亜属に含まれ、そのなかでも生殖器床が円柱形の *Teretia* 節にもっとも近縁であるといえる。このような証拠から、ヒジキ属の独立性を維持することはできないと結論することになった。しかし、ウミトラノオやフシジモクと同じ *Teretia* 節に含めず、*Hizikia* 節を作るのが適当と考えている。

これまで永く親しんできたヒジキ属 *Hizikia* を属レ

ベルで認めないのは残念な気もするし、多くの人に混乱を与えることになる。しかし、形態的な類似性とともにも分子系統の解析結果を考慮すれば、このような取り扱いをせざるを得ない。そこで吉田ら(2000)の「日本産海藻目録」でもヒジキの学名として *Sargassum fusiforme* を採用することにした。

引用文献

- 赤塚伊三武 1979. ヒジキの学名の正しい綴り. 藻類 27: 142.
- Dawson, E.Y. 1959. William H. Harvey's report on the marine algae of the United States North Pacific Exploring Expedition of 1853-1856. *Pacific Naturalist* 1(5): 1-40.
- Harvey, W.H. 1859. Characters of new algae, chiefly from Japan and adjacent regions collected by Charles Wright in the North Pacific Exploring Expedition under Capt. John Rodgers. *Proc. Amer. Acad. Arts Sci.* 4: 327-334.
- Lee, Y.P. & Kamura, S. 1997. Morphological variations of *Hizikia fusiformis* (Harvey) Okamura (Sargassaceae, Phaeophyta) from the western coast of the North Pacific. *Korean J. Phycol.* 12: 57-72.
- 岡村金太郎 1932. 日本藻類図譜. 6(10): 91-101, 87-96. Pls. 296-300.
- Setchell, W.A. 1931. Hong Kong seaweeds II. *Hong Kong Naturalist* 2: 237-253.
- Stiger, V., Horiguchi, T., Yoshida, T. & Masuda, M. 2000. Revision of the systematic position of some species of Sargassaceae (Fucales, Phaeophyceae) based on ITS-2 sequences comparisons. *Jpn. J. Phycol.* 48: 84.
- Tahara, M. 1929. Rhizoid formation in the embryo of *Turbinaria* (?) *fusiforme* Yendo and *Sargassum thunbergii* O'Kuntze. *Sci. Rep. Tohoku Imp. Univ. Biol.* 4: 1-6.
- Tseng, C.K. 1983. Common seaweeds of China. Science Press, Beijing.
- Yendo, K. 1907. The Fucaeae of Japan. *J. Coll. Sci. Imp. Univ. Tokyo* 21(12): 1-174.
- Yoshida, T., Majima, T. & Marui, M. 1983. Apical organization of some genera of *Fucales* (Phaeophyta) from Japan. *J. Fac. Sci. Hokkaido Univ. ser. 5 (Bot.)* 13: 49-56.
- 吉田忠生・吉永一男・中島 泰 2000. 日本産海藻目録 (2000年改訂版). 藻類 48: 113-166.